

今日はコロサイ人への手紙 2 章、最初から 10 節までです。

使徒パウロが聖霊によって手紙を書いています、彼は本当に、大変情熱的に話しているという事を補足しておきます。

コロサイ 2:1-10

1 私が、あなたがたやラオディキアの人たちのために、そのほか私と直接顔を合わせたことがない人たちのために、どんなに苦闘しているか、知ってほしいと思います。

この苦闘という言葉覚えておいて下さい。これについて、後で話したいと思います。

2 私が苦闘しているのは、この人たちが愛のうちに結び合わされて心に励ましを受け、さらに、理解することで豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを知るようになるためです。

3 このキリストのうちに、知恵と知識の宝がすべて隠されています。

4 私がこう言うのは、まことしやかな議論によって、だれもあなたがたを惑わすことのないようにするためです。

5 私は肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたとともにいて、あなたがたの秩序と、キリストに対する堅い信仰を見て喜んでます。

これは彼らの信仰について、パウロの 2 回目の記述です。最初は 1 章のはじめに、これに触れていました。

6 このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストにあって歩みなさい。

7 キリストのうちに根ざし、建てられ、教えられたとおりに信仰を堅くし、あふれるばかりに感謝しなさい。

8 あの空しいだましごとの哲学によって、誰かの捕らわれの身にならないように、注意しなさい。

それは人間の言い伝えによるもの、この世のもろもろの霊によるものであり、キリストによるものではありません。

9 キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。

10 あなたがたは、キリストにあって満たされているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです。

一緒に祈りましょう。

愛する天のお父様、私たちは声をあげてあなたをたたえ、賛美します。

主よ、聖霊を送って下さい。もう 1 度お願いします。聖霊を送って下さい。私たちには聖霊が必要です。

聖霊によって私たちの目を開き、理解できるように、あなたが示そうとしておられる御言葉の意味を知ることができますように。

また聖霊によって、私たちが集中して学びに専念できるように、思考が散らないように力を与えて下さい。

主よ、私たちは聖霊で満たされること、新たな聖霊のバプテスマが必要です。それがもっと重要なのです。イエスの御名によって。アーメン。

今日のタイトルは「先に、危険がある時」です。

これを選んだ理由は、パウロが、1 度も会ったことがないけれど、とても愛しているコロサイのクリスチャンに警告しているからです。

彼がこの教会を始めたのではなく、またコロサイには行ったこともないという事を覚えておいて下さい。

彼が書簡を送っている他の教会とは違うのです。

そして彼は警告しているだけでなく、実際、彼らのことで苦闘しています。

これが、Contending（苦闘している）の箇所です。

英語でこのように訳されている言葉は、新約聖書の原語のギリシャ語では Agon（苦しみ・葛藤）

英語の Agony (苦しみ)、Agonizing (苦しむ) はここから来ています。

なので、パウロがここで言っているのは、「私はコロサイのクリスチャンの事で苦しんでいる。」

会ったこともないのに。

でも彼はコロサイの人々を愛し、彼らの事で苦しみ、間違いなく彼らのために絶えず祈っているのです。使徒パウロにとって、これはいつものことでした。

皆さんが私と同じなら、多分そうだと思いますが、新約聖書の学びを通して、神が大いに用いたこの男の事が分かってきたはずですよ。

皆さんがパウロにどんな印象を持っているか分かりませんが、私は、彼は断じて動じない、威圧的な神の人だと見ています。皆さんの多くもそうでしょう。

彼は行く所どこでも教会を始め、そうして暴動も起こりました。

私が言いたいのは、この男はイエス・キリストのために全精力を注ぐ人で、全く動じないという事です。

でも彼には別の側面があって、ちょっと驚くでしょうが、使徒パウロは非常に心根が優しく、思いやり深く、親切で、愛に溢れた人なのです。

彼はコロサイ教会の事だけでなく、ガラテヤ教会の事でも苦しみ、それを出産の苦しみにたとえました。

ガラテヤ 4:19

私のこどもたち。(何と愛情深い言葉でしょう) あなたがたのうちにキリストが形造られるまで、私は再びあなたがたのために産みの苦しみをしています。

「私はあなた方を産み出していて、あなた方のために苦しんでいます。まるで出産の痛み苦しむ女性のように。あなた方の内にキリストが形造られるまで、私は苦しむのです。」

使徒の働き 20:29-31

29 私は知っています。

私が去った後、凶暴な狼があなたがたの中に入り込んで来て、容赦なく群れを荒らし回ります。

30 また、あなたがた自身の中からも、いろいろと曲がったことを語って、弟子たちを自分の方に引き込もうとする者たちが起こってくるでしょう。

31 ですから、(これは警告です) 私が3年の間、夜も昼も、涙とともにあなたがた一人ひとりを訓戒し続けてきたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。

パウロが泣き叫んでいるのが分かります。彼は泣き叫ぶ人です。

彼は3年間、夜も昼も毎日四六時中、その教会の事で泣き叫んでいました。

これは、パウロはなぜそんなに苦しんでいたのか、という問題を提起します。

なぜそんなに産みの苦しみにもがいて、痛みを感じながら、これらの教会のためにむせび泣いていたのか。

私が思うに、パウロは私たち一人ひとりが知っているべき、ある事を知っていたからです。

それは、「神が働いて祝福して下さる時は必ず、サタンが攻撃し欺く」ということ。これが警告です。

当時のコロサイ教会には、「救いには知識が必要」と教える偽教義のグノーシス主義が入り込んでいました。あるコメンテーターは、「パウロがこれを書いたのは、コロサイのクリスチャンの中に問題があったからだ。しかし『コロサイの異端』と言われるその教義の問題は、的確に記述するには難しく、恐らくユダヤ教の神秘主義と律法主義の要素に、初期のグノーシス主義が合わさったキリスト教の崩壊だろう。」と説明しています。

さて現代へ2000年早送りすると、そんなに変わっていません。

グノーシス主義そのものではないかもしれませんが、これは現代の私たちが直面している最大の危険の一つです。

真実は…これを見逃さないで下さい。

敵は私たちがキリストに立ち返るのを防ぐ事ができないとなると、あらゆる手段でどんな事をしてでも、私たちがキリストから引き離します。

同じ事を別の言い方で。

パウロは「サタン」の欺きに無知であってはいけない」と言っています。

私はキング・ジェームズ訳の「The devil's wiles/悪魔の策略」という訳し方が好きです。悪魔の戦略。

悪魔には戦略があるという事を、私たちは前もって知っている。

敵は確実に持っていますよ。皆さん、理解しなければなりません。

エペソ書でもこれを見ました。

霊的な戦いについて語った時、パウロが選んだ言い回し、言葉遣いは、

私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。(エペソ 6:12)

彼は、4つの異なるランクの霊的実体を詳細に描写しています。

それらは軍事的戦略家の考え方で攻撃してくるのです。

このような昔の戦争の情景をイメージして下さい。

ここに軍事戦略家がいる、目の前に広げた地図を見渡しながら、どこを攻撃するか、攻撃の最適な時はいつかを考えて戦略を練っている。これが常に悪魔がしている事。

さて、信仰が非常に強くて、間違いなく大変良くやっている教会があるとします。

それは注目に値し、称賛される事で、神はこの教会を祝福し、成長させています。

皆さん、そのような事が起こっている時いつでも確信できるのは、「敵は、神がなさっている事を阻止し、潰すためにあらゆる事をする」ということ。

敵は戦略を変更します。

私たちがキリストに立ち返る前は、敵は私たちがキリストから遠ざけるためにあらゆる事をしますが、私たちがイエス・キリストの救いに辿り着いてからは、完全に戦略をシフトして変えて来るのです。

今度はあらゆる事をして、私たちが主から引き離そうとする。主との距離を置くようにさせる。

それは教会のいのちに於いてだけでなく、信者の人生に於いてもです。

これが、敵が私たちが盗み、殺し、滅ぼすやり方なのです。

盗人（敵）が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかなりません。(ヨハネ 10:10a)

イエスは、それが敵のする事で、目的であると言いました。ここで見ている通りです。それが敵の戦略。

コロサイ教会の場合は、説得力のある偽教義が普及していました。

敵は目的を達成するために必要なあらゆる手段、繁栄だろうと、逆境だろうと、多忙や怠慢、その中間も、あらゆる全てを利用する事を知って下さい。

あなたの人生に於いて、この教会のいのちに於いて。それが敵のゴールです。

皆さん、この教会が神の恵みによって祝福されていると同意しますか。

敵は間違いなくこの教会を憎んでいます。皆さんを、皆さんの牧師を本当に憎んでいる。

どうか考えて下さい。

ユダヤ人を愛していて、終わりの時の主の再臨を話す親イスラエルのアラブ人。

皆さんも同じ集団ですから同罪ですよ。笑っていますが。

敵の攻撃は、ある人にとっては繁栄でしょう。

私の書齋に『富の苦しみ』(The Agony of Affluence)という本があります。

神が私たちが祝福し繁栄させて下さっている時、私たちが主から遠ざけるために、敵はその大きな祝福と繁

栄をまさしく利用する事があるのです。

一方で、逆境が同様の効果を持つこともあります。

逆境が襲う時、私たちは解釈を間違ったり、誤解したりしがちで、そして欺かれ、神が怒っていると考え、神から距離を置いてしまうのです。

多忙。これは大きい。

告白しますが、多忙は攻撃の1つで、個人的に非常に責めを覚えている事です。

初めに、主が私の心を探って下さるように求めます。

私の心に、パウロが教会の人たちに持っていたのと同じ愛があるかどうかを見て欲しいから。

そして皆さんの前に立って、包み隠さずお話しできるように願います。

私は皆さんのために産みの苦しみをし、苦闘しています。

私は皆さんを愛し、皆さんのために祈っています。でも、それが私を咎めるのです。

私を咎める別の理由は、グノーシス主義ではなくて多忙です。怠慢ではありません。

『怠け者の手は、悪魔の作業場』（小人閑居して不善を為す）と言われていていますね。それは事実です。

でも私の場合は、それが怠慢ではなく多忙。

神の働きをするのにとても忙しくて、神と一緒に親密に過ごす時間がありません。

私があなたに個人的に（必要なら内密に）手紙を書くとしたら、その中で忠告している事は何でしょう？

あなたの人生に警告すべき事は何ですか。

あなたを滅ぼし、主から引き離すためのサタンの戦略は何ですか。

あなたの人生に設定されている敵のゴールは何ですか。

皆さんはその空欄を埋められると思います。

これが、パウロが2節で言っていることです。

コロサイ 2:2

私が苦闘しているのは、この人たちが愛のうちに結び合わされて心に励ましを受け、さらに、理解することで豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを知るようになるためです。

彼にもゴールがあるのです。それは、心に励ましを受けて愛のうちに結び合わされること。

そして具体的に、また実用的に、そこに達する方法を説明しています。

第1はコロサイ 2:6

あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストにあって歩みなさい。

この意味は、「私たちは主のために生きるのであって、自分自身のために生きるのではない。」

敵が私たちにさせたいのは自分自身のために生きる事。それが私たちに対する敵のゴールです。

「自分に目を向けると落ち込み、他人に目を向けると苦しむ。しかし主に目を向け、主のために生きると祝福される。」

パウロがここで言っているのは、「私たちが主にあって歩む時、敵の餌食にはならない。」

古い讚美歌にあるように、言わばあなたは「神の祝福が湧き出る蛇口の下にいる」のです。

“You’re under the spout where God’s blessing comes out”

馬鹿げているかもしれませんが私は好きです。分かりますよね。

第2はコロサイ 2:7

キリストのうちに根ざし、建てられ、教えられたとおり信仰を堅くし、あふれるばかりに感謝しなさい。

キリストに深く根を下ろして、等しく建て上げられる。

これには少し時間をかけたいと思います。

私がこう言った理由は、私たちが下ろす根が深ければ深いほど、生き方が高くなるからです。

こう言う方がいいかもしれません。

私たちの根っこの深さに比例して、生き方の高さが決定づけられる。

問題は、クリスチャンの人生に深い根がない時。倒されるのは時間の問題です。

敵はそれを知っていて、あなたにはその事を知ってほしくないのです。

詩篇 1 篇。美しい詩篇です。

ところで木曜日の夜、詩篇 119 篇を学び終えたので、御心なら今週の木曜日は詩篇 120 篇です。

この素晴らしい詩篇を進められるところまでやって行きましょう。全篇が全て、本当に素晴らしいです。

多分言い過ぎているので、皆さんをウンザリさせているのは分かっていますが、これは私の大・大好きな詩篇の 1 つです。2, 3, 4, 5, 6 篇も…

詩編 1:2-4 (新共同訳) / 詩篇 1:2-4 (新改訳 2017)

2 主の教えを愛し その教えを昼も夜も口ずさむ人。

2 主のおしえを喜びとし 昼も夜も そのおしえを口ずさむ人。

詩人は御言葉を昼も夜も口ずさむ人を、とても格調高く表現しています。

3 その人は流れのほとりに植えられた木。

ときが巡り来れば実を結び 葉もしおれることがない。その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。

3 その人は 流れのほとりに植えられた木。

時が来ると実を結び その葉は枯れず そのなすことはすべて栄える。

これは大変心に訴える描写です。しかし、詩篇には神に逆らう者への警告もあるので。

4 神に逆らう者はそうではない。彼は風に吹き飛ばされるもみ殻。

4 悪しき者は そうではない。まさしく 風が吹き飛ばす粃殻だ。

立つことはなく倒れるだけ。

マタイ 7:24-27

イエスは家を建てる者 2 人を比較して教えています。

ここにも共通点があって、1 人は賢い人で、もう 1 人は愚か者。

賢い人は御言葉を行い、御言葉という堅い岩の上に建てます。

24 わたしのこれらのことばを聞いて、それを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます。

御言葉を単に聞くだけでなく、実行し、口ずさみ、人生に適応する。

それが自分の根を深くしっかりと下ろし、自分の建物を高く建て上げる人です。

そうすれば堅く建ち、決して倒れません。

しかし、ここでもう 1 度警告です。

愚かな者は浅く不安定な砂の上に建てます。そして「もし起こるなら」ではなく「起こる」時、

27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつくと、倒れてしまいました。

しかも (ただ倒れるだけでなく) その倒れ方はひどいものでした。

私が牧師として奮闘しているのは、御言葉を深く呑み込まない、薄っぺらなクリスチャンが多い事です。

どうか誤解しないで下さい。私は心から悲しんで、苦しみをもって、これを話しています。

御言葉である聖書を、創世記から黙示録までの全部を 1 度も読んだ事のないクリスチャン。

日々、御言葉の中で過ごさないクリスチャンには言いようがありません。

これは義務ではなく特権ですよ。

「主よ、今朝忙しくてあなたとの時間を取れないなら、私を撃って下さい。それは私には耐えられません。

私が倒れるのは時間の問題ですから。」そうでしょう。

こう言うのを許してほしいのですが、浅はかな綿菓子クリスチャン。本当にごめんなさい。ただ、この浅はかなクリスチャンたちが、生き方を忘れてしまっているのは事実です。嵐が襲った時、どうやって生き残るのですか。

御言葉に、御言葉なる神に、深くしっかり根を下ろさなければなりません。

そうすれば逆境が襲って来た時、衝撃を受けて少々揺らぐでしょうが…ハワイに来る前、本土にハリケーンが来た時、木を見て、特にヤシの木ですが、Cの形（くの字形）になるのにビックリしました。でもこれは適切な姿ですね。地に向かってたわむ。しかし折れない。ハリケーンの風力にも。

私たちの生き方が、根を深く下ろして岩の土台に建っているなら、私たちは立つことができます。たとえて言うなら、あなたが御言葉に慣れ親しんで、御言葉に深く根ざしていれば、誰かが非聖書的な事を言って来ても、それが偽教義であっても、あなたはこう言えます。

笑顔で「あら、そう？ 私が何も知らないと思ってるの？ それ、間違いですよ！」

これに関して、今までに聞いた中で最高の実例は、銀行窓口の出納係の話。

技術が進歩している現在、まだそれをやっているのか知りませんが、出納係に偽札を特定する方法を教えている時代がありました。

数えて、臭いを感じて、触って、感触をよく知り、常に見て、本物の紙幣にしっかり慣れさせ、そうして偽札を紛れ込ませると、それを特定できるのです。それは、本物とすごく慣れ親しんでいるから。

隙がないから餌食になりません。

御言葉の堅い岩に、深くしっかり根ざしているから。

これで締めくくります。

第3は、興味深い事ですが、私の個人的体験です。

娘のノエルが亡くなった時、私と妻は結婚に関する統計を聞かされました。

子供を亡くした経験のある夫婦は、約90%という高い確率で結婚生活を失敗すると。

非常に深い悲しみのために、互いが非難し合うから。

クリスチャンとノンクリスチャンの夫婦も同様で、殆どの夫婦が子供を亡くすという経験をしたら、最終的に離婚します。

しかし、私たち夫婦は御言葉に深くしっかり根ざしていたので、立つことができました。

もしイエス・キリストとの関係に成熟、強さ、深みがなかったら、私は今日ここに立っていなかったでしょう。

そして皆さんも知っているように、今日ここに、この教会はなかったでしょう。

ここに来る前、私は知識の言葉と言えるものを実際に与えられました。

少なくともピッタリの言葉で、基本的にはこうです。

「あなたは自分が本当にハワイに召されている事を、確信しなければならない。」

なぜなら本土出身の多くの人々が（紫外線予防の）赤いサングラスをかけて、「主よ、私はここにいます。私をお使い下さい。」「確かに大変な働きだけど、誰かがしなくちゃ。」「主は教会を始めるために、私をハワイに召したのだ。」

私は、本土の教会の役員や長老たちに話した時の事を覚えています。

「神が私をハワイのオアフに教会を建てるように召しておられると、本当に思うのです。」

すると長老の1人が（これは実話ですよ）、「大変失礼ですが、先生は主が言われた事を聞き間違えたと思います。それは、オアフではなくてオハイオですよ。」

私は「下がれ、サタン！」と。

もちろん、パラダイスと言われている場所へ送られたくない人などいません。

でも与えられた言葉は、「あなたは自分が本当にハワイに召されている事を、確信しなさい。なぜなら本土から多くの人があるが、どれだけ大変か、お金がかかるか分かっていないから。(何と言うこと!) だから彼らは上手く行かない。2年くらいはいけるかもしれないが、その後匙を投げ、荷物をまとめて去って行く。現地の人に苦々しさだけを残して。」

私は「どうもありがとうございます。大変励まされます。」私は本当に感謝しました。

何が起こったかという、ここに来てバイブルスタディを始めたのは2004年。最初の礼拝が2005年2月。昨日の事のように覚えています。スーパーボウルの日曜日に始めたから。私はそんなに鋭い方ではありませんが、もし本を書くならこういうタイトルにしますよ。

『教会をスタートさせる時にはいけないこと』

スーパーボウルの日始めてはいけません。15人ほどが来てくれましたが、半分は妻の家族親戚。そして最初の2年間、私はそれまでの人生の中で、最大のミスをしたと思っていました。

「実は、主の声を聞いたのではなかったんだ。あれは主の声じゃなくて、カイルア出身の彼女を地元に戻してあげたいという自分の声だったんだ…」

彼女をカイルアから連れ出すことはできても、彼女からカイルアを取り去ることはできないと言われてますね。

サタンがそこにいたのです。

ノエルが生まれる時、生きて生まれる確率は50%、生存したとしても1歳の誕生日を迎える確率は10%と言われました。

それは、「私が最大のミスをしたからだ。神は私を怒っているのだ。」と私に思い込ませるに十分でした。

ところで、教会はSDAビルを借りていました。

30人 - 40人が礼拝用の木の椅子に座っていて、私が立って話すと、声が空いている席にこだまします。

「おはようございます…おはようございます…おはようございます…」

主は「小さな事、小さな始まりにも忠実であれ」と思い出させて下さいました。

神は小さな事の中におられます。2年経ってもまだ、本当に小さな教会でした。

ある日曜日の事を、決して忘れることはできません。

娘がトリソミー18だという事が分かり、私は愛するこの小さな群れに、「私と妻のために祈って下さい」とお願いしました。

状態は良くなって、いつかは分からないけど、娘が死ぬのは時間の問題だと分かっていました。

皆が集まって私たち夫婦を見て、「ああ、彼も他の人たちと同じだな。」

「この牧師、どうするかな。ここに留まるかな。」「結婚生活は続けられるのかな。」

「他の人たちと同じ。荷物をまとめて出て行くさ。」「ずっと鋤に手をかけたままではいけないだろう。きっと投げ出すよ。」「そらそうさ。子供の死はどんな親にだって悪夢だ。」

ノエルは生まれ、家に連れて帰りましたが、24時間体制の看護が必要で、今でも覚えています。いつそれが起こるか分からなかったのが、携帯電話の電源をオンにして礼拝メッセージをしていました。

その時が来たら、妻が電話をして来る。そしたら私は2人がいる家に戻るという事で合意を得ていました。娘がこの世で最後の息を吐き、イエスの元で最初の息をする時、私たちは2人揃って、そこにいたかったから。

それが起こったのは、ノエルが生後4カ月6日のことでした。

「牧師はどうするかな。荷造りするだろうか。」

私は聖別された言い方をしました。私は基本的には、ハッキリものを言います。

